

# 自分の頭と手で建築を体験できる 東京建築カレッジの実技実習

# カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学  
大歓迎!

TEL 03  
(5950)  
1771

## 1年生の授業から

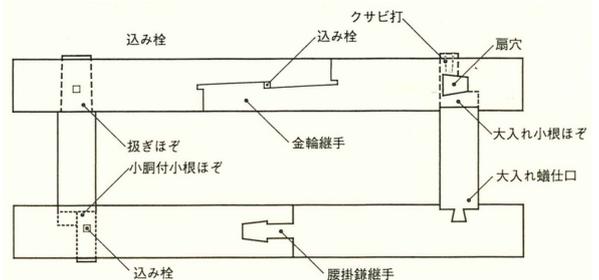
今、建築の現場で目立つのは、組み立て作業です。材料は工場で作られたもの（プレカット）。分業や効率化も進み、全体が見えにくくなっています。建築の本質や知識、技術・技能を、建築の現場だけで習得することが難しくなっています。そこで、東京建築カレッジでは、手道具の使い方から教え、図面を読み解き、材料に自ら墨付けするところから実技実習授業を進めています。

## 手道具に親しむ

本校は、大工の学校ではありませんが、大工技術を学ぶことは建築の基礎の理解に役立つ、という考え方で、鑿（のみ）、鉋（かんな）、鋸（のこぎり）、玄能（げんのう）など大工手道具一式を教材としています。砥ぎを中心とする根気

と熟練が欠かせない道具づくり、基本的な継手（つぎて）・仕口（しぐち）を学んだ後、カレッジフレームと呼んでいる継手・仕口の複合構造体を製作します（左写真）。入学式翌日からの集中授業を含む木造作業実習で学んだ内容の復習であると共に、建物の構造を

実際につくる小屋組み実習や実習棟実習に向けた準備でもあります。与える図面の情報量も単体の継手・仕口課題よりも少なく、自分の頭で考えなければ製作に入れない課題になっています。出来上がったものをただ組み立てる作業員ではな



図面通りに正確に墨付けすることが高精度のものづくりの第一歩

## 来年4月入学生募集活動開始

東京建築カレッジは、第27期生（2022年4月入学生）の募集活動を始めました。募集要項や「授業見学・学校説明会」のご案内は、学校webサイトに掲出しています。入学選考会などのスケジュールもご確認ください。

### ポスター貼り出しにご協力を

2年ぶりに学校ポスターをつくりました。実習棟の木組みの美しさが伝わる写真は好評で、ポスターに魅了されての問い合わせが毎年あります。貼り出しにご協力いただける方は、お気軽にご連絡ください。

働きながら学ぶが、人と自然にやさしい建築の技と知恵  
東京建築カレッジ  
入学生募集

建築の〇と〇〇〇〇が見つかる  
東京建築カレッジからはじめよう!

「大工実技実習」を柱に、建築の基盤を学ぶ多彩な授業 / 進学を促す様々な就職先も紹介しませ

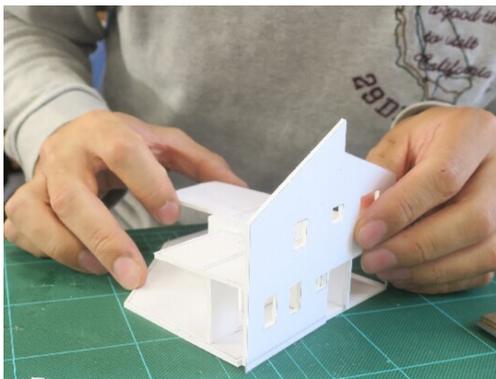
職業能力開発短期大学校 (原宿分館) 東京カレッジ 入学課、学校事務部 03-5950-1771  
東京建築カレッジ www.doken-college.ac.jp  
03-5950-1771 info@doken-college.ac.jp

く、プロの建築技能者のレベルに達するにはどうしたらいいか、課題と格闘しながら学びます。授業は6月5日、12日、19日、26日。見学を歓迎します。要事前連絡。

『カレッジ通信』バックナンバーが読めます



# 住宅設計の授業は模型づくりへ



## 2年生の授業から

模型づくりに入る前に、プランの総点検を行う研修生（右）。実務経験豊富な講師が個別に丁寧に指導します。講師の多くは本校の卒業生です。



与えられた敷地条件で自由設計。100分の1、50分の1サイズの模型でプランを検証します

東京建築カレッジは、住宅設計の授業も充実しています。設計演習の課題は大学の建築学科のように複数はありませんが、各自がお施主を創造し、与えられた敷地に理想の住宅をどのように建てるか、という演習を1年次の後半から2年次にかけて、数科目の授業横断型で行っています。

設計プランを検証する段階に入りました。模型は100分の1サイズを最初につくり、必要な場合、修正を加え、最終の設計プランを完成させ、50分の1サイズの模型に仕上げるというものです。完成後は、なぜこのような設計にしたのか、誰でもわかるプレゼンテーションの機会が与えられます。

同じ敷地条件でも、お施主の価値観、ライフスタイルの違いで、住宅とはこんなにも多様な放つものなのか、クラスメイトの発表を聞きながら、住宅建築の自由度の高さを感じる事ができる授業です。自由度が高いだけに、設計と施工の専門家の責任は重大です。

## プランの検証

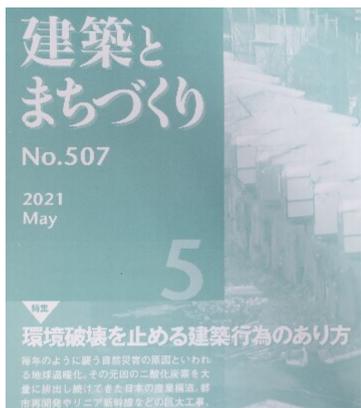
### 『建築とまちづくり』5月号

#### 本校 金田 正夫講師が寄稿

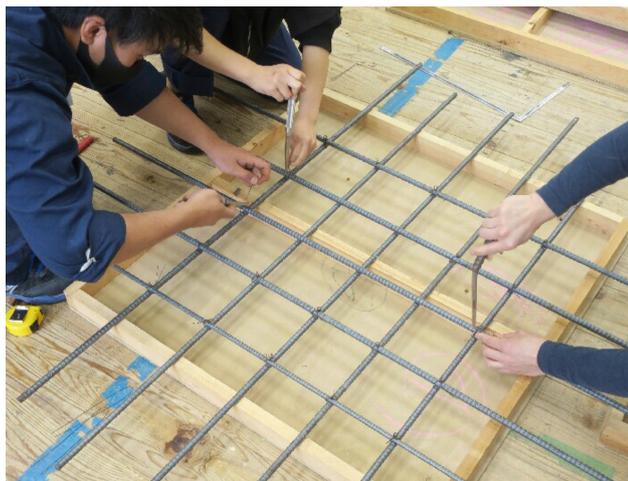
「自然と正面から向き合ってみませんか  
---環境異変を回避するために」

本校で「木質材料」などを担当する金田正夫講師（一級建築士）が新建築家技術者集団が発行する『建築とまちづくり』5月号に持論を寄稿しました。金田講師は「省エネではなく省資源のために、自然の法則を生かした先人たちの建築の知恵をもっと生かすべきだ」と日頃授業で力説しています。「高気密・高断熱の住宅一辺倒ではエアコンがなければ暮らせない住まいになってしまう」とも。

寄稿では、本校の研修生に大きな影響を与えている金田先生の考え方がコンパクトにまとめられています。一読をお勧めします。



『建築とまちづくり』5月号の表紙。特集は「環境破壊を止める建築行為のあり方」。



## 7つの各専門工事職施工体験

本校の実技実習の多くは大工技術ですが、2年次の前期には7つの各専門工事職の施工体験授業を設けています。建築現場を統括する棟梁（とうりょう）をめざすには大工以外の仕事の理解も欠かせないからです。

型枠・鉄筋、左官（モルタル、漆喰しっくい）、水道設備、塗装、内装・クロス、タイル、板金の順で体験します。教える人は本校母体の東京土建の組合員さんで各分野のプロです。タイルの講師は本校の渡辺義久理事長。限られた時間ですが、貴重な経験なので、研修生たちは集中して授業に参加しています。

上と右の写真は、5月27日の「型枠・鉄筋」施工体験授業の様子。鉄筋の結索作業も面白がって取り組んでいました。

